

# アイテムしごと探検隊

●実施日：2007年8月22日(水)  
読売新聞大阪本社のお仕事探検！



## 読売新聞大阪本社

大阪府大阪市北区野崎町5-9 <http://www.yomiuri.co.jp/>

今年発行55周年を迎える読売新聞大阪本社。読売新聞グループの一員として近畿、中国、四国の2府13県と三重県の一部に情報を発信するほか、関西の地域に根ざした責任ある報道を行っています。また、イベントの主催などを通して文化の向上や産業の発展に貢献するのも大切な事業のひとつ。マルチメディアの時代を迎え、ますます重要になっている新聞社の責任を果たしています。



読売新聞大阪本社の仕事  
「数」の意味を考えてみよう！

スポーツ欄にテレビ欄、4コママンガに小学生向け新聞：今回の探検隊に参加する隊員は日ごろ新聞を読んでいる。そのくらい新聞が好きな隊員たちには、かねてから聞きたいことがあったようだ。尋ねると「報道に使うカメラの値段は？」、「1日の発行部数は？」、「事件が起こったら現場に何分で到着するか？」など「数」に関する疑問が圧倒的に多い。確かに発行部数や働く人の給料など、数字は事業の幅や大きさを表している。知ることのできることもあるけれど、そこにはもっと深い意味があるはずだ。



情報を速く、正確に伝えるために  
現場の人が語る仕事の魅力と大変さ、やりがい！

「新聞教室」に戻ってきてまず聞いたのは、広報宣伝部・江原さんの話。「新聞の読み方」をテーマに、新聞には「いつ」「どこで」「だれが」「どんな理由で」といった情報が書いてあるということ、号外を紹介しながら説明してくれた。また取材では写真を撮ったり、人から話を聞いたりすることで情報を集めるのだと話してくれた。つづいて登場したのが新聞記者。事件や地域の情報を集める記者の仕事に欠かせないのは2台のカメラに地図など。中でも携帯電話は、取材に欠かせないアイテムだとか。これらの7つ道具を2つの鞆に分け、状況に応じて持ち物を決めるといふ。取材が終わったらすぐに原稿を書いて見出しを付け、携帯電話をパソコンにつないで送信する。目の前で見せてくれた素早い作業を、隊員たちは食い入るように見ていた。最後に話をしてくれたのは報道カメラマン。撮影のためにどんな苦労をしているか、カメラを使って説明してくれた。決定的瞬間を撮影するために何日も前から現場に張り込み、カメラを構えて待つという。



新聞づくりは、情報づくり。  
みんなの「知りたい」に応える仕事なんだ！



もう一歩踏み込んで、数字の意味を考えてみよう。読売新聞大阪本社で最初に案内されたのは「新聞教室」。ここでは新聞づくりの流れが紹介され、記者やカメラマンの仕事、印刷技術を知ることができた。教室には8月の発行部数も掲示されている。探検日現在、発行部数は全国で約1010万部、大阪本社では約255万部だという。新聞は、身近な情報から海外の最新ニュースまで、たくさんの人が情報を集めることでつくられる。「読みやすく、分かりやすい」新聞のために働く人の力が、情報の力だ。さあ、今度は新聞がつけられる様子を見てみよう。



情報の「質」と印刷する「量」のバランスが大切！  
編集局↓地下の印刷工場↓

大変だけど、プロは専門性を活かして一生懸命情報を集めている。大きな望遠レンズを使って実際にシャッターを切らせてもらった時の感動。この気持ちを忘れないでほしい。記者やカメラマンは、新聞を読む人の「知りたい」に応えるために仕事をしているのだ。



今回の探検で感じたこと  
大変さを乗り越える情熱が新聞をつくる！

読売新聞大阪本社の仕事は得るところが多かったようだ。新聞は記者やカメラマンなど、働く人の情熱の結晶だ。それだけじゃない。工場の人が必要な部数を印刷することで、新聞は読者のもとに届く。つまり多くの人が協力して新聞はつくられているのだ。一人の隊員から「記者やカメラマン、印刷工場で新聞を束ねている人のどんな仕事も大変だ」という意見が出た。読売新聞大阪本社の役割は、「知りたい」人に分かりやすい情報を早く提供すること。

## 隊員の感想コーナー

- 号外が思ったよりもずっと多く出ていたことや、新聞は刷版(さっぱん)というアルミの板にインクと水を吹きかけて印刷されていることなど、新聞社の中を詳しく見られているいるのが分かった。勉強になった。(村上くん)
- 知らないことを知ることができてよかった。また来たいです。(福井さん)
- ほとんどが機械の作業だったことに驚いた。初めて会った人と仲良くなれて、たくさんの仕事を見ることができた。(秋山くん)
- 新聞の印刷が4色で表現されていることにびっくりしました(石上さん)
- 束ねられた新聞が運ばれている様子を見ているのが楽しかった。(山本くん)
- 500kgの紙を20分で使い切るなんてすごいと思った。(林さん)

●隊員紹介(あいうえお順)  
秋山くん(5年生) 石上さん(5年生) 得能さん(5年生) 林さん(5年生) 福井さん(6年生) 藤宇くん(5年生) 丸山くん(6年生) 村上くん(6年生) 村上くん(5年生) 山本くん(5年生)

スタッフからみんなへ  
●真剣に話を聞く姿がとても印象的でした。みんなも情熱を持って取り組める仕事をみつけてね！(M)  
●積極的に探検する姿勢、とても立派だったよ！これから新聞を毎日読んで、社会のアンテナを高くてね！なりたい仕事に就けるよう、応援しています！(N)



その役割を果たす力が「数」となって表れているのだ。世の中には「見たい」「聞きたい」「してほしい」など、たくさんの方の期待がある。その期待に応えるためには大変な仕事もやり遂げる情熱と使命感も必要だと知った隊員たち。探検の記念にもなった特別新聞も、最後に手にした修了証も、情熱が形になったもの。その情熱を感じてもらえたら嬉しいと思う。



熱心にメモを取っている隊員たちが、立派な記者に見えた。次に訪れた地下の印刷工場では、新聞が1分間に1000部もの速さで印刷される様子と、印刷される前の大きな巻き取り紙を見学。青・赤・黄・黒と4色を重ねていくことで、ハッキリしていくカラー印刷の仕組みを知って、驚く隊員たち。立ち込めるインクのおいや機械の音もすべてが情報だ。この情報を伝えるのが、記者と報道カメラマンの仕事。これが新聞の「質」を決めるとしたら、印刷の速さは記事を書くの人の人に届けるために発行部数を支えている。つまり「量」にあたる部分。また、よい記事が載っている新聞は、より多くの人に読まれるようになる。すなわち「質」が「量」を呼び、「量」が「質」を支える。限られた時間の中で情報を速く、正確に伝えるシステムが分かってきたかな？

